


月 日	子どもの姿	働きかけと配慮
8月1日 あさがおの開花を待つ	<ul style="list-style-type: none"> ・巻きつきながら伸びていくつるが、隣の友だちの支柱に伸びてくつくと、「切れないように外そう」と慎重に外す。 ・あさがおのつぼみが出来始めると、巻いているつぼみの色から、「私のはピンクが咲くみたい」「ぼくのは紫だと思うなどと、花が咲くのを楽しみにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻いているつぼみの色に気づくよう、言葉かけをする。
8月24日 色水あそび	<ul style="list-style-type: none"> ・しぼんだ花で色水あそびを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの種の収穫からいのちのつながりに気づかせる。
9月25日 種集め	<ul style="list-style-type: none"> ・「これをまくとまた花が咲くんじゃよ！」と種をビニール袋に集め、いのちがつながっていることを感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・茎が茶色になった時、茎を使ってクリスマスリースが作れることを投げかける。
10月26日 リース制作	<ul style="list-style-type: none"> ・茶色の茎を根元から切って、クルクルとねじりながら輪にする。拾ってきたどんぐりとリボンをつけてリースを作る。 ・「あさがおも喜ぶね」と感じあい、種からリースまでの過程やその時ときには成長に合わせた世話が必要であることをみんなで振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおのいのちの成り立ちの変化をわかりやすく話し、子どもたちにいろいろな考えをもたせる。
		
11月6日 作品展に展示	<ul style="list-style-type: none"> ・「食育」をテーマにした作品展で、「あさがおのリース」として展示し、互いに見せあい、保護者にも見てもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおを育てることを通して、“育む”のに大切なことはなにかを学んだことを伝える。

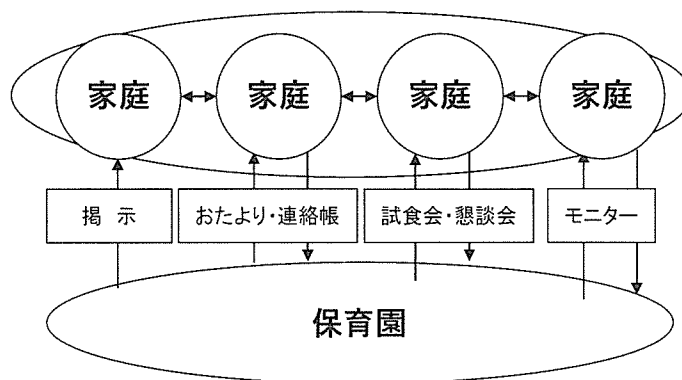
③ 評価・反省

これまで毎年、5歳児クラスで行ってきた栽培活動の視点を変え、食育への取り組みのひとつとしてとらえたことで、取り組みの幅を広げることができました。年間指導計画[資料2-1・2参照]で計画し、あさがおの生長や変化に合わせて、子どもたちに投げかけ、いのちの成り立ちを考えていく活動を展開していきました。この取り組みにより、子どもにどのような影響を与えたかということは、すぐに結果をみることはできませんが、保育者が柔軟な心で食育を考え、環境を構成することは、子どもが小さなものや動植物への思いやり、自分や他者を大切に思い、慈しむ心をはぐくむ一助になると思います。

今後は子どもたちの現状を見据えながら、食べることの大切さと合わせて、生活に密着した総合的な食育への取り組みを具体的に計画し実施していくかが課題となっています。

2) 在園児の家庭との連携

保育園から「掲示」「おたより・連絡帳」「試食会・懇談会」を通して、家庭へ発信します。家庭は、それらの情報を受け取り、保育園に連絡帳や試食会、懇談会、日々の送迎時で返してきます。保護者の食育モニターは家庭での姿を保育園を通して、他の家庭に向けて発信します。家庭と家庭とが互いに情報を交換し、影響を受け合うこともあります。



(1) 掲示

① ねらい

- 食育に関するさまざまな情報を掲示し、食器、食具や給食のサンプルを展示することにより、保護者に食への関心を持ち、家庭の食事を考えてもらう場とし、「食の大切さ」「食べる楽しさ」を伝えていく。
- 子どもの育ちの姿を写真や言葉を視覚的に表して掲示することで、保護者に保育(食育)に関心をもってもらい、子どもの育ちを保育園と家庭とが共有、共感する。

② 活動の実際

	内容	方法	保護者の反応
食育コーナー	職員のおすすめレシピの掲示と提供[写真-①]	・職員の家庭で実際に作って食べている簡単でおいしいおすすめレシピを紹介する。 ・実際の料理も写真にて掲示する。	・「家で作ったらおいしかったです」等、レシピを持ち帰って作った感想が聞かれる。 ・職員を身近に感じて、持ち帰る家庭が多い。またアレンジしたことを伝えてくれることもある。
	食器・食具、弁当箱等の展示 [写真-②]	・子どもの手に持ちやすい食器(茶わん・汁わん)、弁当箱、食具(箸13cm 14.5cm 16cm 18cmの長さのもの・磁器製のスプーン・フォーク)の実物を展示する。	・実物を手にとってみるにより、その食器の質感、重さ、大きさ等を感じてもらえた。 ・家庭でもそろえてみようという声もあり、新たな気づきにつながった。 ・弁当箱はすぐに反響があり、手にもちやすい容器に換えてくる子どもが多く見られた。
	ホームページの内容の掲示	・ホームページに上矢部保育園や他のモデル園の食育の情報があることを知らせ、またパソコンがない、ページを開くことができない家庭に向けてホームページの内容を提供する。	・クラスの取り組み、園全体での取り組みが簡単なコメント目にとまりよく見ていた。
	ごちそうさま通信の掲示 [写真-③]	・毎日の子どもの食事の様子(食べ具合など)を「ごちそうさま通信」のメモに各クラスの担任が書き、ボードに貼りつけて掲示する。	・「ごちそうさま通信」と給食サンプルを照らし合わせながら、子どもの食事の姿を想像したり、子どもの好みを知ることができたようだ。
	給食サンプル展示と給食のメニューと材料表示 [写真-④]	・実物の給食とおやつを展示することで、見た目や量、大きさ、色合いなどを見てもらう。親子で見て、「今日の給食」の話題へつなげる。	・「毎日子どもと見ています」「子どもと一緒に見たいというので…」の声をよく聞いた。 ・親子の会話がはずむ姿が見られた。
	モグパクレシピ 給食・おやつのレシピの提供 [写真-⑤]	・子どもに人気で調理が簡単なレシピの提供と実物の写真を掲示する。	・実物の写真や給食やおやつのサンプルがあるので、興味をもっていた。 ・保育園ならではの味付けや、材料の組み合わせに保護者の関心が聞かれる。 ・子どもからの要求で、家庭でも作りたいと、レシピのリクエストがあった。
	食育に関する本の貸し出し [写真-⑥]	・食育に関する絵本や紙芝居を置き、親子で食への関心を持ち、楽しく読んでもらう。	・食育コーナーの隣に絵本の貸し出しコーナーがあるので、食育に限らず絵本を借りる姿は多い。
	給食室へのQ&Aコーナーの設置 [写真-⑦]	・保護者からの給食室への質問事項を用紙に書いて、質問箱に入れてもらい、給食室の調理員が答える。	・「煮豆のおいしい煮方をおしえてください」「息子はヨーグルトが好きですが一日どのくらい食べさせていいのでしょうか」などの質問があった。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">クラスの掲示</p>	<p>子どもの活動内容の紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の食育の取り組み、クッキング、栽培活動、地域の方々との関わり等、子どもの姿や活動の写真やその時の子どもの言葉や取り組みの内容やねらいを表し、クラスの掲示板に掲示する。 ・ホットな情報を伝えるよう掲示物はなるべく活動した日に掲示するよう心掛ける。 ・後半は、ホームページにのせるページをA4サイズに印刷して掲示する。 ・送迎の際、保護者に掲示物を見てもらうよう子どもたちに働きかけ、写真を見ながら、子どもの育ちを伝え、保護者と共有共感する。また子どもと保護者が今日の出来事を会話する媒体の役割を果たす。 	<p>クラスに掲示することで、保護者の送迎時に見てもらえる機会が増え、子どもの育ちの姿や取り組みについて担任と話しができ、喜び、驚く保護者の姿が見られた。</p>
---	--------------------	--	---

③ 評価・反省

「食育コーナー」においては、食育実行委員会で検討し、計画[資料2-1・2 全体の計画]を立案し、実行しました。コーナーは計画をもとに、その時の取り組みやニーズに合わせて、内容を深め、レイアウトをリニューアルしながら進めてきました。また食育を進めていく中で、職員の意識が向上し、アイデアを出し合い保護者にわかりやすく有効な情報を発信していけるよう努めました。

写真を通した子どもの姿の掲示はその時の臨場感や子どもの表情を視覚的に伝えられ、保護者へも情報を伝えやすく、子どもの育ちの感動を保護者と共有共感していくこともできました。

様々な情報を発信した「食育コーナー」は、子どもに誘われながら来たのをきっかけに、楽しみに見ていただける保護者が徐々に増えていきました。

保育園が情報を発信するだけでなく、「子どもが作ってほしい・・・というので」と保護者からのレシピのリクエストや「給食室への質問コーナー」への保護者からの質問、他の保護者に読んでほしいと食育に関する本を持参しての紹介など、保護者からの発信もありました。

視覚的、具体的な方法での情報発信は、食育への興味・関心をもってもらうには、大変有効でした。しかし日々の忙しい保育園の送迎の中で、保護者に食育コーナーに足を運んでもらうこと、掲示板に目を通してもらうことは、全員の保護者へは難しいところでもあります。忙しい中でも、保護者が情報を得て、食育に関心を示し、保育園と家庭とが連携をとれる方法を今後は考えていきたいと思えます。

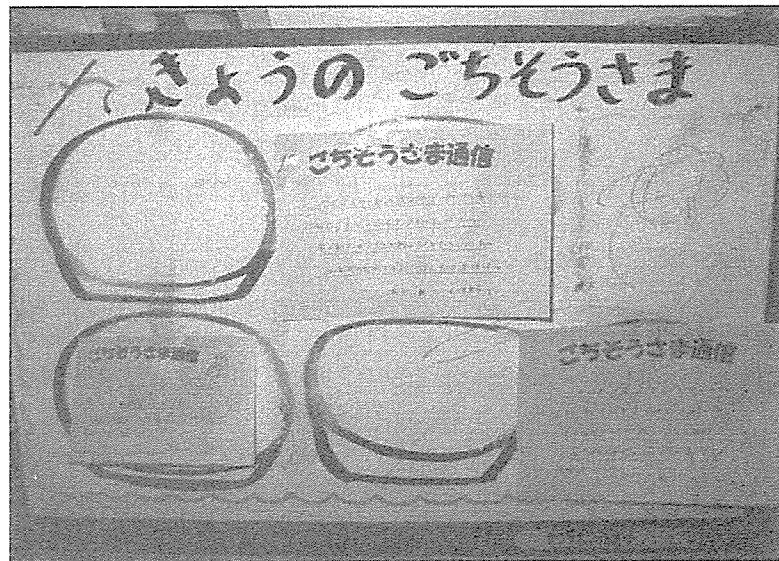
【写真①】
職員のおすすめレシピ



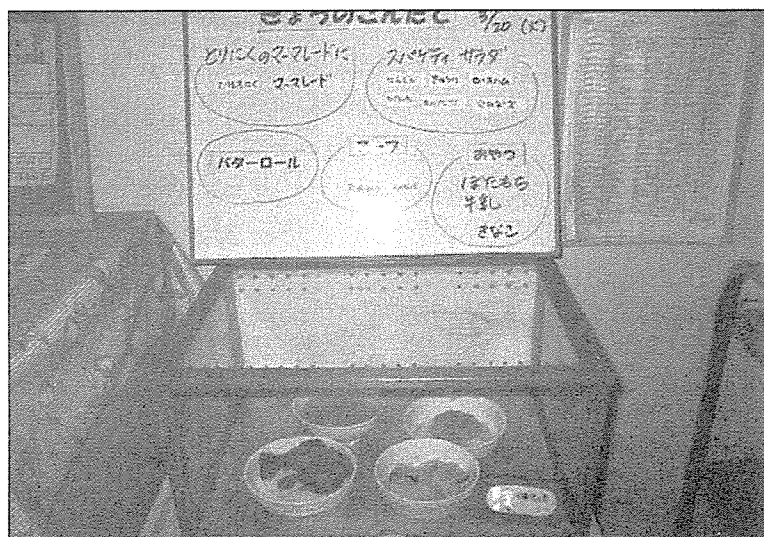
[写真-②]
食器・食具、弁当箱の紹介



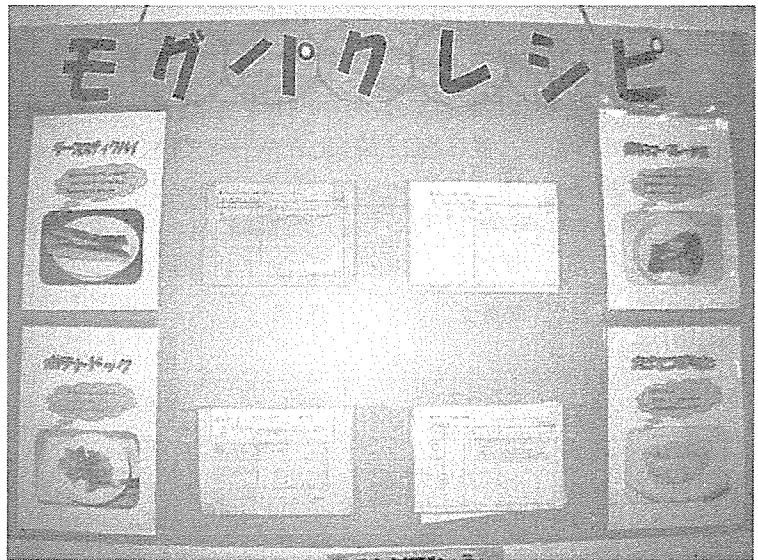
[写真-③]
ごちそうさま通信



[写真-④]
給食サンプルと給食の
メニュー・材料表示



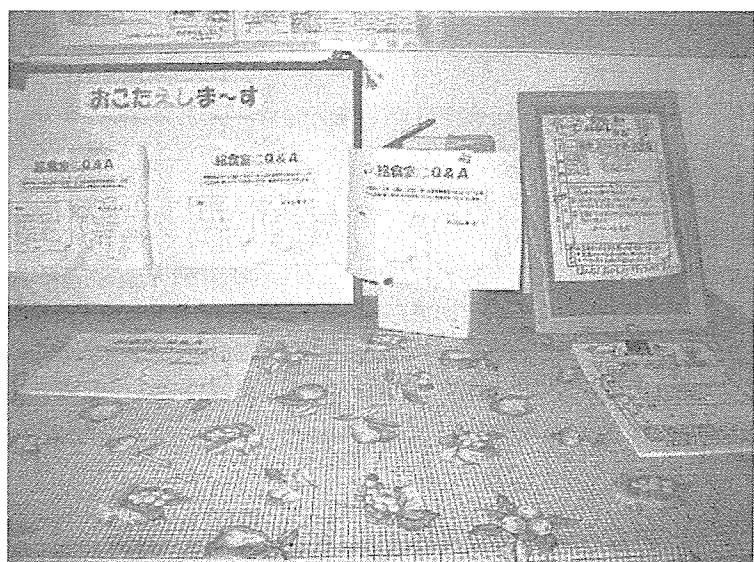
[写真-⑤]
モグパクレシピ



[写真-⑥]
食育に関する本の貸し出し



[写真-⑦]
給食室へのQ&A



(2) おたより

① ねらい

おたよりを通して、食育の取り組みや情報を発信し、保護者に食の関心を持ち、家庭での食事について考えてもらい「食の大切さ」「食べることの楽しさ」を伝えていく。

② 活動の実際

種類	発行	発行回数	対象	内容
園のたより	保育園	月1回	全園児	・食育の取り組み紹介
献立表(表) 給食だより(裏)	栄養士	月1回	全園児	・月の献立表 ・季節に合わせた食に関する情報
クラスだより	各クラス担任	年4回	各クラス園児	・クラスの食育の取り組み紹介 ・子どもの育ち
わくわくだより (オープン保育だより)	345歳児クラス	年7回	345歳児クラス園児	・ランチルームでの取り組み紹介・経過 ・子どもの育ち
食育だより	食育実行委員会	年2回	全園児	・給食試食会の速報 ・おやつ試食会の速報

③ 評価・反省

おたよりの発行回数、時期は、年間計画を立て、計画の通り発行しました。[資料2-1-2 全体の計画参照]おたよりの目的に合わせて、内容を決め、お互いのおたよりで重複しないようにしました。

園のたよりでは、全園児対象に食育の知識を伝え、各クラスの取り組みを紹介しました。一方クラスだよりやわくわくだよりでは、子どもたちの姿や取り組み、具体的な説明、状況を詳しく載せました。食育だよりは、試食会での保護者の声を載せ、他の保護者への情報の掛け橋になりました。

おたよりは、日々の忙しい子育ての中でも「子どもが寝てから・・・」「通勤の電車の中で読むことができる」という声を聞きました。手軽に情報が得られ、楽しみにしている保護者も多いようです。

今後は保護者の求めるおたより＝情報は何なのかを知り、要望に答えていけるような内容、発行回数等考えていくこと、保育園だけではなく保護者からの発信も載せていけるよう工夫していくことが課題となります。

(3) 試食会

① ねらい

○園での給食を通して、幼児の食事の量、形態、与え方に関する知識を深め、理解する。

○子どもの食事の様子を観察することで、食を通した子どもの発達(食行動、他児や大人とのかかわり)を理解する。

○食育を通して、園や保護者(家庭)間の連携を深める。

② 活動の実際

a) 期間と対象

平成 18 年6月12日(月) 11:00～14:30 (0、1歳児を持つ保護者)

平成 18 年6月13日(火) 11:00～14:30 (2歳児を持つ保護者)

平成 18 年6月14日(水) 11:00～14:30 (3歳児を持つ保護者)


平成 18 年6月15日(木) 11:00～14:30 (4歳児を持つ保護者)

平成 18 年6月16日(金) 11:00～14:30 (5歳児を持つ保護者)

b) 場所

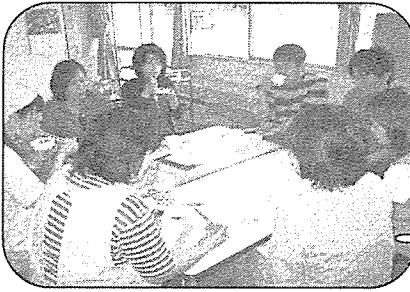

上矢部保育園 子どもの昼食の様子を見る → 各保育室
試食会 → 一時保育室

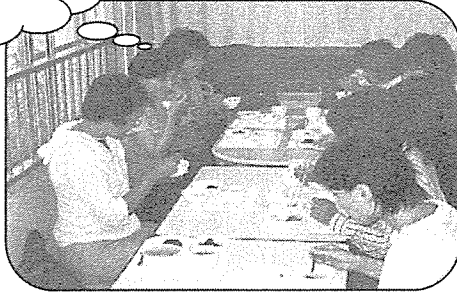
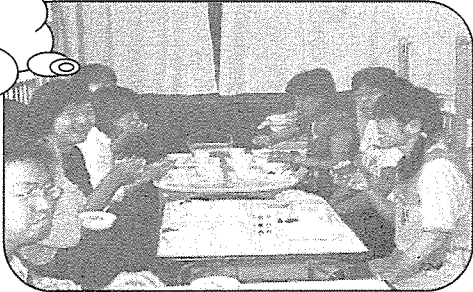

c) 活動の流れ

ねらい	活動の流れ	必需品	支援
①子どもの給食の様子を知る。 ②試食を通して給食を知る ③園や家庭における食育を振りかえる ④園や保護者間の連携を深める	・参加者事前申し込み ・9:30～保育参観 ・11:00～給食の様子の観察 ・12:30～試食会 ・13:00～食育に関する討論 ・13:30～まとめ・アンケート記入 (14日のみ) ・13:00～酒井先生による講話 ・13:30～ディスカッション ・13:50～まとめ・アンケート記入	} チェックリスト ・ランチョンマット・給食・デジカメ・弁当箱・子どもに合わせた、家庭で使用する食器 ・デジカメ・弁当箱・アンケート用紙 ・ハート型用紙 ・プロジェクト版お便「楽しく食べる子どもに」 ・リーフレット「楽しく食べる子どもに」	・チェックリストの配布 ・メニューの紹介 乳児・幼児の食事の量・形態・食器・食具などについての知識を伝える ・司会が保護者の意見を引き出す  感想や意見を書いてもらう用紙

d) 活動の実際

①保護者の声

	給食の様子を見て	食育に関するディスカッション
0, 1歳児 (6名)	・家ではスプーンを平べったいのを使っているので、使えていないのに、園では握りやすいのか、しっかり持って食べていた ・家では教えていないのに、コップは片手で飲んだり、お汁は両手で上手に飲んでた。それは園でやっているからなんだと食事の様子を見て思った 	・白い食器は食べ物が一番おいしく見え、きれいに食べられたという実感が得られると聞いて、家でも白い食器にしてみたいな ・食育とは、食べるだけでなく、いっぱい寝たり、遊ぶ意欲だったり、生活全てが食育につながっていることを知って、食育で人生いい方向に行ってくれればいいなあ。 ・自分(母自身)も食育に対して色々やりたいが、仕事もして、なかなかできない。
2歳児 (11名)	・いっぱい食べていてびっくり! ・食べる前、皆がそろりまであんなに長い時間座っているのにびっくりした ・食べている最中立ち歩いている子がいなかった ・友だちとおしゃべりしているけど、食べることを休んでいない 手のひらサイズってこんなに小さいんだ! 	・プラスチックだとおいしくないですね。磁器食器は、見た目もおいしいのかな ・子どもが家ではあまり食べないから、大好きなキャラクターの絵がついた食器を買い揃えたのに、あまり興味を示さず、相変わらず食べない。子ども用のサイズや重さが大事なのですね。 ～お母さん達の会話から～ A「この年齢でどこまで手伝わせていいのかわからない」 B「うちは、野菜を切ったり、いためたり、運んだり、食器洗いなどほとんどやってくれるよ」 A「危なくないの？」 B「危なくないよ、包丁を使う時の手の形・位置を教えたり、にんじんは転がらないように下だけ皮をむいて、安定するようにしているよ。姉の力も借りているよ」 ⇒工夫次第でできることはたくさんあるんだね

	給食の様子を見て	食育に関するディスカッション
3歳児 (10名)	<ul style="list-style-type: none"> ・家では絶対に食べない和え物を食べていて驚いた ・主食(ご飯)が多いのか少ないのかわからず、よく食べるからいっぱい入れて持たせているけど、今日見たら、無理して食べていた ・箸を自分で持ってちゃんと食べていた <p>おかずがあったかい!</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も落とすから割れないプラスチック製の食器を使っていたけど、落とすからこそ重いほうがいいんだ! ・子どもを迎えに行くと、家に帰ってご飯をすぐ出せるようにしたいけど、なかなかできない ・家では、嫌いなものには箸をつけようとしめない。怒ったりほめたりして食べさせようとしている。怒っちゃいけないのわかっているけど、イライラしちゃう
4歳児 (11名)	<ul style="list-style-type: none"> ・家では使わせていなかったけど、園でトングを使って盛り付けていたのにびっくりした ・家では食べる量にムラがあるのに、園ではよく食べていた <p>意外と少ないんだなあ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の給食って味が薄いけど、おいしい。家でも薄味に気をつけているけど、ついタレとかつけてしまっている ・前は子ども用の食器を使っていたけど、子どもに「何でぼくのは小さいんだ!」と言われ、仕方なく大人用の食器を使っています ・家族一緒に食卓につけるようにしています ・なかなか家族の時間が合わなくて、親と子どもは別々に食事を取っています ・主食の適量を実際に見て、こんなに少ないんだと思いました ・上矢部保育園が食育のモデル園になって、どんな取り組みをしているのか見てみたかったので、よい機会になりました
5歳児 (10名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ当番の放送がかっこよかった。この放送があれば、みんな食べにいきたくなるなあと思う ・思ったよりよく食べていました <p>年長さんの主食の適量はこれくらいです。</p>  <p>こんなに食べるの!? 結構量が多いんだ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食は薄味を心がけていたけど、好みが出てきて、今では大人と同じ味付けです ・家に帰ってから夕食を作るので、子どもはどうしても間食してしまう。ちょっととつい、おかしを食べてしまうので、量を決めています ・食事の時、悪ふざけをしたり、ちょろちょろ動き回り、母もイライラして怒ってしまう。食事を切り上げてもへっちゃんな顔をしている。だから、夜中にお腹がすいて、祖母にすがりつき、お茶漬けを食べていたことがしばしばありました。 ・うちでは立ったらごちそうさまという約束をしています ・朝ご飯は作るのが大変だし、今の状態からいっぺんに品数を増やすのは無理。前に何かの便りで読んだら、1品ずつ増やしていきましょと書いてあったので、今はパンと牛乳とたまごを作るようにして、これからステップアップして行こうと思います ・食べることだけが食育ではないんですね。すべての意欲が食育につながるんだ。手を洗う事だって意欲だし、パンツをはくことだって、自分のものを大切にすることだって食育につながるんだ。生きることが意欲ですね。 ・TV番組でアフリカを特集していたとき、アフリカの子どもが“お腹いっぱい食べたことがない”と言っていたのに強いショックを感じた。何とか日本の子どもたちにも分かってもらいたいけど、日本にいる限り、そういう現実を体験しないですんでしまう。今、自分たちができることは、食べ物を粗末にしないということかな

	給食の様子を見て	食育に関するディスカッション
		・以前、子どもと一緒にTVを見ていたら、貧しい国の食べられない子どもたちがうつっていた。それ以来、ご飯を食べるとき、“食べられない国の子どもがいるんだよね”と話をしながら食べていると、自分の子どももよわわわっている感じで食べています。

②主食の量と弁当箱の紹介

1回の主食量目安

年齢	ご飯	食パン (1斤 360gとして)	バターロール (1個 30gとして)	(参考)エネルギー
1～2歳	70～80g	8枚切り1枚	1個強	125Kcal
3歳	90g	6枚切り1枚弱	2個弱	151Kcal
4歳	100g	6枚切り1枚	2個	168Kcal
5歳	110g	5枚切り1枚	2・1/3個	185Kcal

* 1～2歳児のごはんについては固さ(水加減)によってちがいますので、大まかな量です

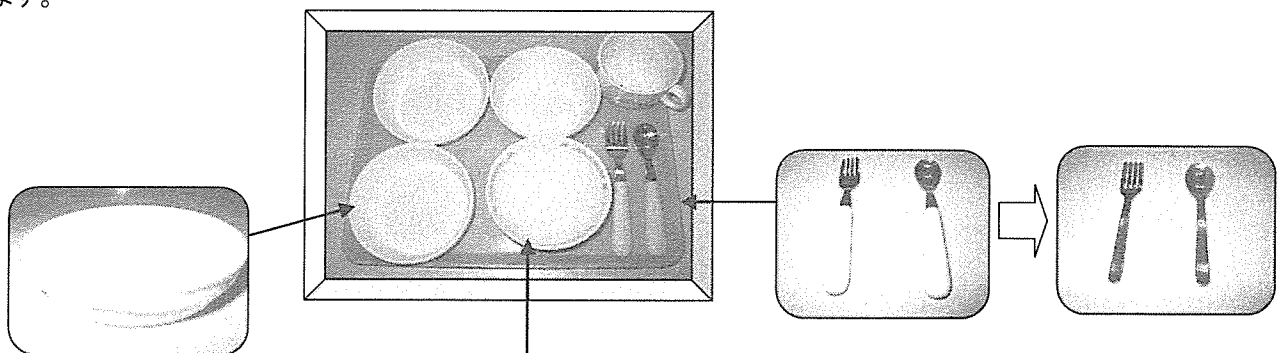
弁当箱



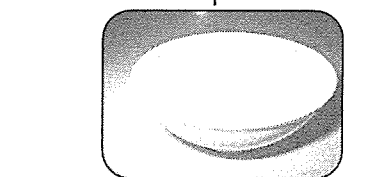
実際のご飯の目安量と弁当箱です。市販の弁当箱は、表面積が大きく、浅いタイプで、子どもたちは片手では持ちづらく、食べにくかったり、落としてしまうことがあります。高さがあり、表面積の小さいタイプは、子どもの片手におさまり、しっかり持って食べることができます。

③食器・食具の紹介

保育園では、食器は全て磁器製のものを使っています。ずっしり重みがあり、子どもたちはしっかり持って食べます。



主菜をいれるお皿です。ふちがたちあがっていることで、おかずをすくったときに、すべり落ちずに、スプーン・フォークの上ののり、食べやすくなっています。



ご飯と汁物のおわんです。子どもが片手で持って食べられる大きさの、子ども用のおわんを使用しています。

0, 1歳児のスプーンはグリップが太く握りやすい、磁器製のスプーン・フォークを使用しています。しっかりと握ることができることで、「すくう」「さす」という動作が上手になり、自分で食べる意欲が出て、満足が得られるようになります。

日々積み重ねていく中で、上手に使えるようになり、グリップの平らなスプーン・フォークへと移行していきます。

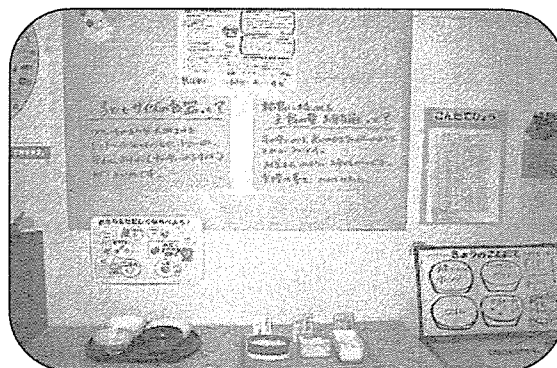
④試食会の速報の作成

試食会での内容をまとめ、速報として、6月22日(木)に各家庭に配りました。〔資料5-1, 2参照〕

⑤食育コーナーに実物を展示

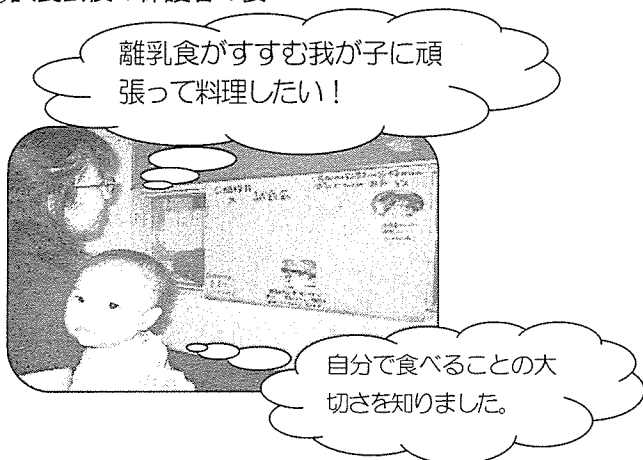


《おさらをたたくならべよう!》というポスターと一緒に子ども用サイズの食器と箸を展示しています。箸の長さは、手のひらの親指の先から人さし指の先までの長さを基準に、その約1.5倍が目安です



掲示板に試食会の速報、“子どもサイズの食器って?”“給食に持ってくる主食の量・お弁当箱って?”というポスターを貼り出し、実物を展示しました。

⑥試食会後の保護者の姿



e) 活動を振り返って

保護者に給食を食べてもらい、知ってもらうことで、給食への関心を示してもらうことができました。幼児クラスにおいては、持参してくる主食の量や弁当箱の大きさも考え、用意してもらうように速報や食育コーナーで具体的に知らせていくことができました。

出席した保護者は自分達にできる「食育」とは何か?とディスカッションしたり、家庭で話し合ったりしており、何か動こうとしている様子があります。自分の子どもが集団の中で食事をしている姿を見て、家庭でのマナー指導などに反映できるように働きかけていきたいと思えます。

速報を配布し、ハートの用紙を各クラスに掲示したので、欠席だった保護者にも活動の内容を伝えることができ、次に発展していけるように働きかけることができました。

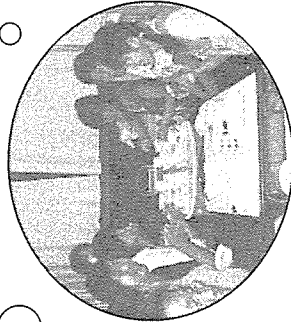
しかし、お知らせの内容が不十分で、子どもと一緒に給食を食べられると思っていた保護者が多かったので、急遽、張り紙をし、知らせました。今後は詳しく記載したいと思えます。

試食会のアンケートや記録を活かして、職員全員が把握し、保護者とのやりとりで“食”への意識を高めていき、その後の反響もキャッチすることがしたいと思えます。今後は、家庭での食事の様子などの情報をもらい、保護者間の情報交換にしたいと考えています。

食育だよ！ 試食会速報！！ Vol.1

H18. 6. 22発行

6/12～6/16の間公開保育と試食会に多数のご参加ありがとうございました。試食会は初めての試みでしたが、給食を皆さんで囲みながらいろいろなお話ができ、良い時間を過ごせたことを嬉しく思います。皆さんから出た貴重なお話を紹介します。



- ① 園での給食を通して、子どもの食事量、形態、与え方に関する知識を深め、理解する。
- ② 子どもの食事の様子を観察することで、食を通じた子どもの発達（食行動、他児や大人との関わり）を理解する。
- ③ 食育を通して、園や保護者（家庭）間の連携を深める。

20年が4回の給食！！

「味付けがやすい！」という声が圧倒的！

→保育園では、塩・砂糖などの調味料の量がちゃんと決まっています。

「野菜が多い。家ではもっと少ないなあ・・・。」「ボリュームがある」という声もきかれました。

「おいしい！」という声も多く頂きました。「家では食べない具が入ってるのに、どうして保育園では食べるの？」「どうやって作るの？」

→園の調理員も参加し、直接答えてくれました！「玉ねぎとベーコンのオムレットにはスキムミルクと生クリームが入っていたり、味噌汁のだしは、削り節からとっています。」そのほかに、保育園ではお友だちと一緒に食べるので、パクッと食べてしまうこともありますね。試食会のメニューは、モクバク楊赤板の前にレシビがおいてあり、人気メニューは園たよりにも掲載してありますので、ご覧くださいね！

・・・「ひと工夫ひと手間なのね」と納得されていました。

〇磁器食器って？

「食器がずっしりしてる」「しっかり持って食べていた」

→保育園では全ての食器が磁器食器です。赤くみは磁器フォークとスプーンを使っています。磁器食器は重さがあるので、多少ぶつかっただけではテーブルから落ちませんし、落ちたら割れるので、子どもたちもしっかり持ち、大事にあつかうのです。料理が一番おいしく見える白を使用しています。また、子どもサイズの食器（手のひらにのるサイズ）を使っています。

・・・「家では落としてもいいようにプラスチック製を使ってる」「プラスチックだとおいしくないですね。磁器食器だと見た目もおいしい」

「家では大人用を使ってる」「子ども用のサイズや重さが大事なんだ！」「週末買いに行こう！」

とほとんどの方が興味を持ち、熱く語り合いました！

〇おかゆのカロリー？衛生管理

「乳児は主食が出るけど、実際どの位が適量なのかかわからない」

(1斤300g) (1個30g)

年齢	ご飯	食パン	バター	ミルク
3歳	90g	6枚切り1枚弱	2個弱	
4歳	100g	6枚切り1枚	2個	
5歳	110g	5枚切り1枚	2・1/3個	
1～2歳	70～80g	8枚切り1枚	1個弱	

また、主食を入れるお弁当箱は、手のひらにのり、高さのあるタッパーのようなものがいいそうです。保育園ではお弁当箱をおすすめしていましたが、タッパーのほうが良いということがわかり、まさに目からウロコでした！！

★朝飯、夕飯をみさんと一緒に食べてほしいですか？★

朝の忙しい時間、とりあえず子どもだけ・・・と思いがち。子どもが食べているとき、保護者の方は食べても食べなくても一緒に席についていますか？別の場所にて「食べなさい」と声だけかけていませんか？

※朝食は内容ではありません。忙しくても時間を確保して、一緒に食べる幸せを味わわせてあげましょう。

・・・「栄養バランスは気にしたほうがいいですか？」

→そんなんにたくさん作れないのでは？ごはん、味噌汁を含めて、3～4品あれば良しにしましょう。時間が無い朝などは、作った煮物等を小分けにして冷凍しておけば、すぐに食べられます。野菜が少なくなると感じたら、具たくさん味噌汁にすればいいのです。



東京家政学院大学 助教 酒井治子先生

いろいろな悩みや発見がありました

資料5-2

赤くみ

- ・「家ではどっちも早食いなんです。」
→「もくもく、もくもく」とか、「よくかんでね」と声をかけながら食べています。

☆保護者より☆

- ・家での食事を見直すよい機会になりました。離乳食が進む我が子に頑張って料理したい！ ますます楽しい食器選びのお買い物物です♪
- ・試食会楽しかったです！



桃くみ

- ・「家ではひたすらしゃべりっぱなし、食べてくれない。遊び食べになってしまいます。」
→家はくつつろぎの場だから当たり前のこと。ただ、一区切りすることは大切なことですね。

- ・「この年齢でどこまで手伝わせていいの？」
→「姉の影響もあって、うちは野菜を切ったり、炒めたり、運んだり、食器洗いとか、ほとんどやってくれるよ。」
「危なくはないの？」
「危なくないよう、包丁を使う時の手の形・位置を教えたり、人參は転がるから下だけ皮をむいて、安定するようになっているよ。お姉ちゃんのカも借りてね。」

※危なくやらせられない気持ちがあるなら、無理してやらせることはありません。ただ、工夫次第で2歳児にもできることはたくさんあります。

黄くみ

- ・「おはしの持ち方は、言ったほうがいい？」
→今は持ち方について言わなくていいですよ。
- ・「子どもが保育園で食べたひじきご飯を家でも作ってみました。好評でした。」

→桃くみでも、マグロのケチャップソースあえを家で作り、大好評だったというお話ができました。

- ・「子どもと一緒に料理をしたら、喜んで食べてくれました。ホットケーキでした。」
→大きなお手伝いははなくていいから、何か子どもがひと手間かけられるといいですね。特におやつ類は大好きです。

白くみ

- ・「お腹が空いた時にご飯をあげたいけど、夕飯は待てずに、間食してしまいます」

→「うちは、作っている間に姉たちとお風呂に入ってもらい、その間にバアアとつくり、風呂から上がったなら、すぐ食べられるようにしているよ」

- ・「家ではうす味を心がけているけど、タレとかドレッシング使ってるなあ・・・」
→保育園では調味料の量が決まっています。慣れてくると、職員も家ではタレなんて使わなくなるんですよ！

緑くみ

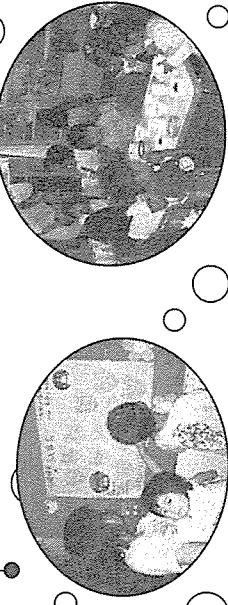
- ・「食べることでだけが食育じゃないんですね！」
→たくさん遊ぶことも、手を洗うことも、パンツをはくことも、自分の物を大切にすることも全部意欲。生きることも意欲。その意欲が全部食育につながるのです。

- ・「以前TVで、アフリカの子どもたちが食べることも満足にできない現状を特集していて、心が痛くなった。」

→「うちも子どもと一緒にTVをみて、それ以来、子どもが食べられない子がたくさんいるんだよね、いいながら、がんばって食べていました。」
「食育って難しいけど、今自分たちができることは、食べ物を通して来ないってことだね。」

- ・「子どもよりも、親が勉強して変えていかなきゃね！」
- ・「朝ごはんは子どもたちだけで食べています。」

→「朝ご飯を作るのは大変。でも、いっぺんに品数を増やすのは大変なので、1品ずつ増やしていこうって何かのお便りで読んでよ！ 卵だけとか。」



☆本当にたくさんのご意見をいただき、また保護者同士での意見交換もとても参考になりました。悩みなどを打ち明けて、皆で考えたり、ヒントを見つけたという声をたくさんいただき、嬉しく思います。これからも、ご家庭と一緒に考えていきたいですね！

(4) おやつ試食会

① ねらい

保育園のおやつを子どもと一緒に食べて、おやつの時間を楽しみ、保育園の「食」に興味・関心をもってもら

② 期間と対象

- 平成19年1月23日(火) 15:00～15:30 (5歳児を持つ保護者)
- 平成19年1月24日(水) 15:00～15:30 (4歳児を持つ保護者)
- 平成19年1月25日(木) 15:00～15:30 (3歳児を持つ保護者)
- 平成19年1月30日(火) 15:00～15:30 (2歳児を持つ保護者)
- 平成19年1月31日(金) 15:00～15:30 (0, 1歳児を持つ保護者)

③ 内容

あらかじめ、見て欲しいポイント用紙を保護者に配布し、子どもと一緒に食べてもらう

おやつ試食会 ココがポイント!

—ポイントを絞って、有意義に試食会を過ごしましょう

手づくりおやつ

- ・量はどれくらいかな
- ・既製品と比べて
- 味はどうかかな

食の方

フォークの持ち方はどうだろう。
自分で意欲的に食べているかな


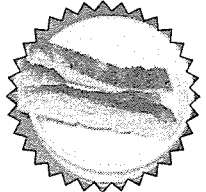


たのしく

・友だちや保育士と楽しく食べているかな

カミカミ パックン

よく噛んで食べているかな
早食へはしていないかな

●保護者の声

5歳児 『お好み焼き』	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしかったです。ペロッと食べてしまいました。 ・おうちでも作ってみようと思います！ ・かわがちよっとかたいたいかな？ハムの入っているお好み焼きは、初めて食べました。 ・おやつのなかに、スキムミルクが入っていたのはびっくり！ 	
4歳児 『チーズスティックパイ』	<ul style="list-style-type: none"> ・スティック状になっていて、子どもも持ちやすく、食べやすかった。 ・売っているものとは違うやさしい味わいでした。 ・子どもと向き合っってゆったり食べるこことって大切だなと改めて思いました ・おやつの量や味についてとても参考になりました 	
3歳児 『ポテトドーナツ』	<ul style="list-style-type: none"> ・既製品と比べたら、味は甘さ控えめでした。既製品ばかりではなく、たまには手づくりしてみたいなあ～ ・子どももとても楽しそうによく噛んで味わって食べていました。家でのおやつの時間ももっとたいせつにしなければと改めて思いました。 ・最初にまず牛乳を一気に目をつぶって飲んでる様子に苦笑してしまっ 	
2歳児 『焼きそば』	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜もたくさん入っていて、おいしかった！これなら野菜を残さず食べられました ・おそばが短く切ってあったり、食べやすくなっていたのが目からウロコ。家でも心がける！ ・皿とフォーク、手に持って楽しそう、それだけでおいしさ度がUPしているように思いました。 	
0, 1歳児 『ポテトドッグ』	<ul style="list-style-type: none"> ・サクサクとして、温かくて、できたてのおやつでびっくりしました。 ・家ではじゃがいもが好きではなく、食べさせていなかったけど、おやつにするとう食べていた。 ・子どもたちがよく食べていて、うれしいですね ・フォークの使い方がもう少しかな。 	

④ 評価と反省

試食会は年2回全保護者に向けて、実施しました。年間行事予定は明示しており、6月の「給食試食会&公開保育」1月の「おやつ試食会&懇談会」として実施しました。[資料2-①全体の計画]

これらの試食会は、保護者にとって子どもの保育園での食事の姿や保育園の給食を知る機会として、保育園にとって保護者の感想、日頃の家庭での様子を知る機会として、両者の連携のきっかけとなる有意義なものになりました。

6月の試食会以降の保護者の反響が目覚しく、それぞれの家庭で「給食の味付けが薄味なので、家庭でもみそ汁の味を薄くしてみました。」「自分達にできる“食育”って何だろうと家族で話し合いました。」などの試みが、保護者から声を寄せられました。さらに、保護者同士のディスカッションで話題となった「主食の量」が家庭から持参してくる主食のごはんやパンの量、弁当箱に変化が見られました。1月の試食会では、6月よりもさらに大勢の保護者の参加がありました。食育へ関心の高まりも伺え、保育園の手づくりおやつならではの発見や驚きを感じてもらい、簡単に作ることができるおやつレシピを持ち帰り、家でも作ってみましたとの声が寄せられました。

試食会は子どもと同じ食事を共有することで、子どもの食事について改めて気づいたり、感じたり、考えたりする機会になる有効な取り組みであることがわかりました。仕事をもつ保護者に時間を作ってもらい参加してもらうことも、共に子どもを育て、歩んでいくためには、大切な時間であると考えます。

今後も保護者へは取り組みの理解と協力をお願いし、試食会で保育園と家庭、家庭と家庭とが情報を交換し、“悩みを出し合い、皆で話し、考えていく場”になるようにしていきたいと思えます。

(5) 保護者による食育モニターの募集

① ねらい

食育モニターとしてその家庭での食事の様子、家族との関わりなどを紹介することで、他の家庭にも食育に関心をもってもらう。

② 活動の実際

モニター募集のお知らせを各保育室に掲示した。応募者が少なかったため、各クラスから1～2名に声をかけることにした。モニターには写真を持ってきてもらい、受け取りのときに簡単にインタビューをし、様子を聞いた。モニターの貼り出しは2週間位、クラス毎に掲示をし、その後はモグパク掲示板に全クラス分を移し掲示する。

<第1弾モニターからの提案>8月23～31日

- 1歳児・・・祖父母宅での食事の様子と一品ごとに小皿に分けて食べる様子
- 2歳児・・・祖父母宅での野菜収穫の様子と配膳の手伝いの様子
- 2歳児・・・包丁(ねこの手)、調理(ガスコンロを使用したいためもの)の手伝いの様子
- 3歳児・・・シュークリームのおトッピング(チョコ)の手伝いの様子
- 3歳児・・・食器洗いの手伝いの様子
- 3歳児・・・保育園でまいたかぼちゃの苗をもらい、家庭で栽培、収穫したかぼちゃと作ったコロツケを食べ
ている様子
- 4歳児・・・家族で食事をしている様子
- 5歳児・・・調理の下準備を手伝っている様子

<第2弾モニターからの提案>2月1～9日

- 0歳児・・・双子を家族みんなで協力をし、食事や遊びに関わる様子
- 2歳児・・・スコーン、デコレーションケーキ作りの様子
- 3歳児・・・姉に教えてもらいながら包丁、すりおろしなどの手伝いをする様子
- 3歳児・・・子どもの好きなメニューの紹介と、それをよく食べている様子
父親と朝食を作る様子
- 4歳児・・・夕食の手伝いをする様子
- 4歳児・・・保育園のクッキングで行ったホットケーキを自宅で行っている様子
- 5歳児・・・手づくりの餃子作りと保育園のクッキングで行った、べっこうあめ作りを自宅で行っている様子

③ 反響・効果

1歳児・・・祖父母宅での食事の様子と一品ごとに小皿に分けて食べる様子

6月の給食試食会や、もぐぱく掲示板で子ども用の茶碗や小皿の展示紹介と、大皿から取って食べるのではなく、1品ごとに小皿に取り分けて食べることを紹介した。それをうけ自宅でも小皿に取り分け、子どもの目の前に皿を並べて食べるようにし、その様子をモニター写真として持ってきてくれた。

4歳児・・・家族で食事をしている様子

家族でダイニングテーブルで食事をしている様子を写真で持ってきてくれたが、本児の体の大きさと椅子、テーブルの大きさが合っていないこと、姿勢の悪さが気になり保護者へ声をかけた。本児の希望で大人と同じ物で食事をしていたとの事だったが、本児に理由と見通しをたてた説明をして説得をし、子ども用の椅子で食事をする事となった。

3歳児・・・姉に教えてもらいながら包丁、すりおろしなどの手伝いをする様子

包丁を使う様子を写真で持ってきてくれたが、100円均一のものを使うと、あまり切れ味がよくないため、子どもに使わせるにはいいと聞き、ワンポイントアドバイスとして紹介した。クラスの子どもからも包丁を使っているという事で反響が大きかった。

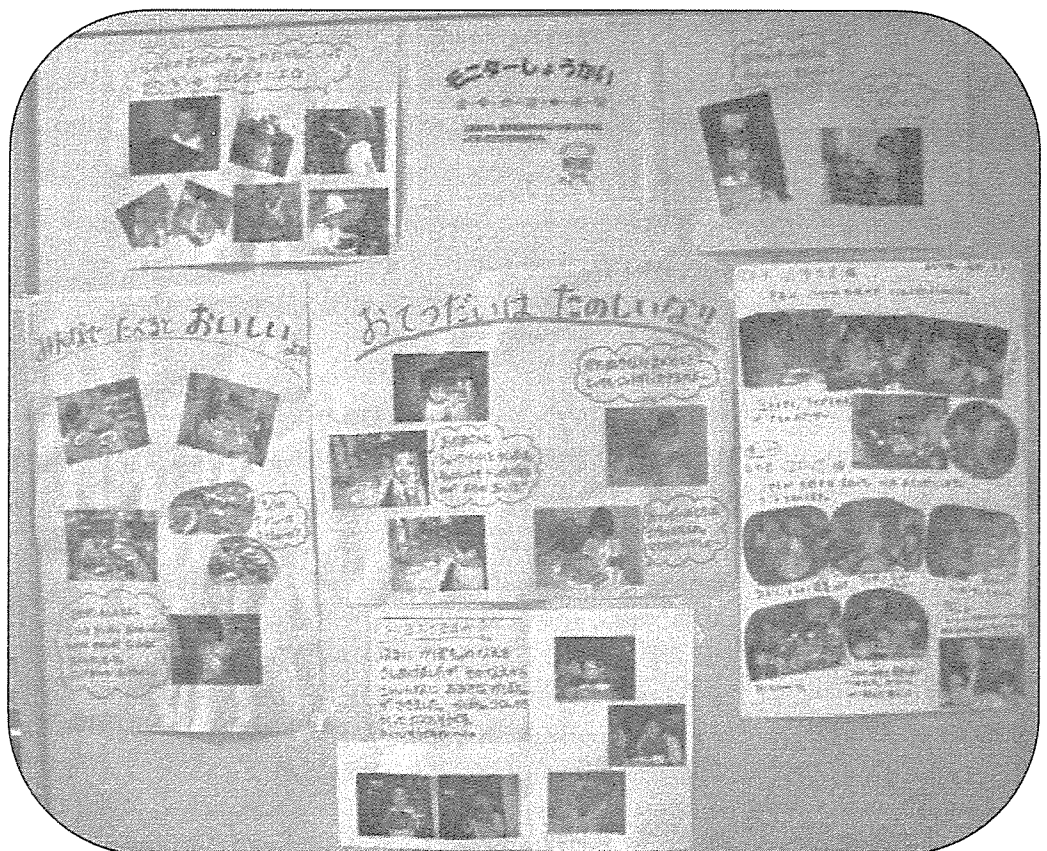
5歳児・・・手づくりの餃子作りと保育園のクッキングで行った、べっこうあめ作りを自宅で行っている様子

今まで市販のものを多く使っていたが、子どもからの希望で手づくりをしてみると、子どもの反応も大きく、母親自身の考えに変化があらわれたとの事。また、園で行ったクッキングが家庭でも行われ、子どもが作り方などを伝えていた。

④ 評価、反省

「食育モニター」は食育の高まりがみられる中で、食育実行委員が新しい試みとして立案、企画し実施しました。募集掲示から立候補される保護者は少なかったのですが、声をかけてみると快く「やってみます」という前向きな声をいただき、取り組んでくださいました。実際に家庭で子どもと料理する場面、家族で食事をする場面を写真に撮ることで、保護者からは「たのしかったです」「一緒に手作りをするとよく食べるんですね」「改めて我が家の食事を見直す機会になった」などの声もきかれました。1人でも多くの保護者に取り組んでもらえるよう、さらに第2弾も企画し実践しました。各家庭での工夫が他の保護者にとっても家庭の食事を振り返るきっかけとなったようです。

保育園としては、モニターの家庭での食事の様子がわかり、子どもの育ちの理解に役立ちました。気になる所は声をかけたり、子どもとのやり取りの1つにもなりました。来年度はモニターの声を他の保護者に伝えていく方法や、課題に合わせたモニターの取り組みなど、家庭から家庭への情報発信ができる取り組みに進めていきたいと思えます。



3) 地域との連携

下記のような機関と連携した活動をしました。

		生活技術指導士(農家)	市食生活推進団体『わかな会』
ねらい		食べ物を生産している人に会ったり、調理前の野菜を知る。 相模原市の農作物や旬の食べ物に興味、関心をもつ。	馴染み深いうどんの成り立ちを知る。地域の人と触れ合いながら楽しんでうどん作りをする。
内容		ふるさとの生活技術指導士から野菜を見せてもらい、話を聞き実際に触らせてもらう。 その野菜で調理したものを一緒に食べる(給食)	小麦粉から練ってうどんを作る。 作ったうどんを子どもの目の前でゆでて食べる。
年齢		3, 4, 5歳児	5歳児
成果	子どもの育ち	野菜の出来る過程を実際に作っている人から聞く事で関心が深まり、食べようとしたり野菜を話題にする会話が多くなった。	うどんの材料や作り方を知る事が出来た。 地域の人と触れ合う事で色々な大人がいる事や教えてくれる人がいることを知った。
	活動のあり方	普段関わりのある保育士ではなく、地域の人から話を聞く事で話す視点もかわり、子どもの興味や関心が広がった。	クッキングを通して地域の人と関わる事が出来た。 わかな会公民館事業の親子クッキングに参加した子は、親近感を持って活動に参加できた。
課題		1回だけの企画ではなく回を重ねたり、日常に実際の触れ合いがないと、ねらいを達成するのは難しいので今後も続けていけるようにしたい。	事前の細かい打ち合わせが出来ずに当日になってしまったが、今後は、連絡を取り合って細かい計画をたてていくようにしたい。

《連携のプロセス及び評価反省》

生活技術指導士の方とは保育課栄養士から、今回の取り組みの話をいただきました。市役所農林課からの呼びかけで「ぜひ、保育園で」というアプローチがあり、保育園でも地場野菜に触れる機会が少ない現状の中で、子どもたちに新たな気づきや興味や関心の幅を広げてもらおうと期待し取り組みました。地場野菜に触れ、農家の方の話を聞く体験は子どもたちにとって、新鮮で普段接している保育士とは視点もかわり興味や関心がひろがりました。

活動のあり方としては、打ち合わせが不十分なところがありました。農家の方は室内で行うものと思い野菜を洗ってきてくださいましたが、当日は屋外で行ったため土のついた野菜に触れることが出来ず、残念であったということでした。農家の方と細かい打ち合わせが必要であったと反省しました。また、今回の取り組みは、1日だけのイベント的なものでした。

地域で食育をすすめる会「わかな会」とは、市役所地域保健課から保育課栄養士を通して、関わりが始まりました。まず初めに公民館で開催される、わかな会主催の「親子で食育～ソーセージ作り」と題した親子料理教室への園児と保護者へ参加依頼の話がありました。そのイベントに10組の親子が参加し(中には父親の参加もあった)親子で料理する楽しさを味わえたという声が聞かれました。その後、保育園での5歳児クッキング「うどん作り」の際にわかな会の方々がうどん作りが得意という情報を保育課栄養士から聞き、うどん作りへの助言、協力をいただいて子どもたちと地域の方との関わりをしていこうと考えました。

「うどん作り」でわかかな会の方々と会い、料理教室に参加した子どもから「前に会った事がある」「一緒に料理をした」と声があり保育園での再会に互いに喜び合う姿もありました。

この活動を通して子どもたちは、地域の方の話を聞き教えてもらいながらうどんを作り、関わりの中で大人に見守ってもらえる安心やぬくもりを感じる事が出来たように思います。

今後は、栽培活動の助言やクッキングの参加など年間を通して関わっていけるよう計画をたて、実施できることが課題です。地域の方々と関わりあいをもつことで、子どもたちの興味や関心、活動の幅を広げていくことを期待します。

4) 子育て支援(地域の子育て家庭)にむけて

(1) 公民館主催の食育セミナーのサポートと情報提供

① ねらい

公民館で活動している地域の母親グループ(1～3歳児の子どもを持つ母親 “ゲンキッズくらぶ”)が公民館と主催する「食育セミナー」に向けて、グループの母親に保育園がサポート、情報提供をし、地域の子育て支援へつなげる。

② 活動の実際

月日	地域の母親グループの動き	保育園からの支援
1月23日	・地域の子どもセンターで行われる地域子育て支援事業「ふれあい親子サロン」で“食育アンケート”を配布、回収する。	・「食育セミナー」の開催を知り、食育モデル園でもある保育園として何か支援ができないか・・と声をかける。
2月6・7日	・保育園に見学に来る。各年齢の遊び、給食の姿や食器・食具を観察する。	・保育園の見学を勧める。各年齢の保育室を回り、保育や保育園児の遊びの姿、食育の取り組みを説明する。 ・食育に関する資料を提供する。
2月27日	・「ふれあい親子サロン」で“食育セミナー”のビラ配る。	・「ふれあい親子サロン」の親子遊びのコーナーで食育セミナーの宣伝をする。
3月8日	「食育セミナー ～みんなではなそう こどもごはん」開催	
3月15日	“どんなごはん食べてるの?”	
3月22日	“栄養士さんを困んで” “つくってたべよ”	

③ 評価・反省

地域担当が地域の子育て支援事業の中で、セミナー開催に向けて頑張る母親の姿を見て、保育園としてサポートできることがあるか声をかけました。子育て中の母親グループが、食について真剣に考え、活動しており、同じ悩みをもつ母親たちに向けての食育セミナーを開催しようとする意欲と向上心に驚きました。

公民館のバックアップによりこのようなセミナーが地域の母親グループから発信されることに保育園の食育の情報提供やサポートが少しでもできることで、様々な機関の連携がなされてより効果のあるものになることを期待したいと思います。

今後は、地域の母親の食に関する悩みやニーズにどうこたえていくか、保育園の役割が具体的に必要とされていることが課題になります。

(2) 保育ウィーク

① ねらい

地域の子育て家庭に向けて、保育園の施設や保育、取り組みを紹介し、消防署との合同訓練や縁日ごっこの行事に参加してもらい、保育園を知る機会とする。

② 活動の実際

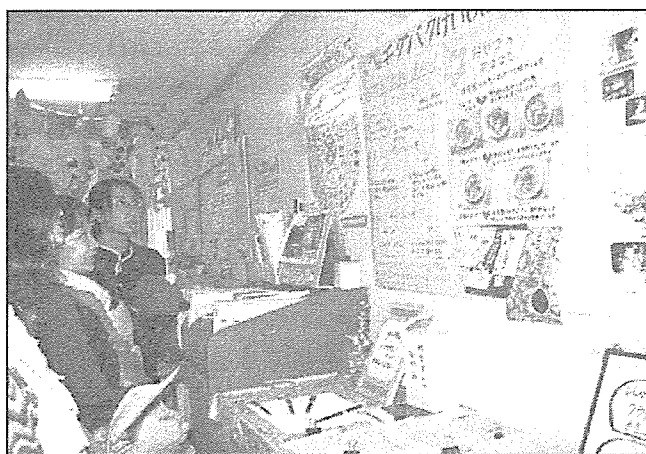
内容	方法
食育コーナーの紹介 [写真-⑧]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食・おやつレシピの提供 ・ 食器(茶碗・汁碗)・食具(スプーン・フォーク・箸～木製 13cm 14.5cm 16cm 18cm)の展示 ・ 保育園の献立(離乳食・普通食)の紹介 ・ 食育の様々な取り組みの紹介(ホームページの内容をプリントアウトしたもの)
保育園児の給食場面の見学	・ 説明をしながら保育園児の姿、給食の場面を見学してもらう
作品展 [写真-⑨]	・ 「食育」をテーマにした年齢ごとの作品の展示
消防署との合同訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防自動車の見学 ・ 消火器の取り扱い訓練 ・ 煙体験 ・ 映画上映
縁日ごっこ	・ ボーリング・玉入れ・的当て・ヨーヨーつりなどのゲームコーナーの中で保育園児とのやりとりを楽しむ
わくわくランド	・ 運動遊び・砂場遊び・制作を通して、保育園児とふれあう
おたのしみシアター	<ul style="list-style-type: none"> ・ パネルシアター・手品・手遊びを楽しむ ・ 親子スキンシップ遊びの紹介
育児相談	・ 子育ての悩みなどの相談

③ 評価・反省

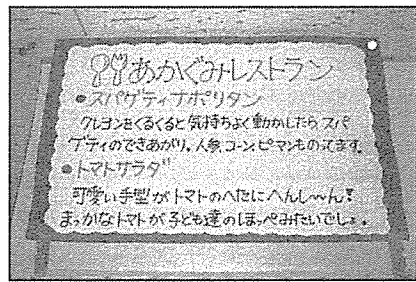
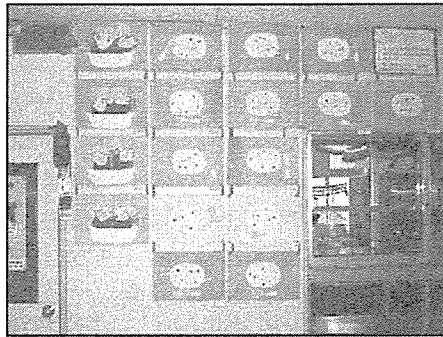
保育ウィークは年間行事予定の中に位置付けてあり[資料2-1・2参照]、地域の子育て家庭に向けて、保育園を知ってもらう機会として一週間実施しました。今年度は、食育の取り組みをピーアールすることも大事な目的でした。地域の母親達の関心は、同じ年齢の子ども給食場面でした。子どもの姿や食育の取り組みを見学、説明を聞くことで、家庭の食事を振り返り、我が子の姿と照らし合わせて今の子育てや食事のあり方など、相談してくる方が多かったです。

今後は保育ウィークだけではなく年間を通して、地域の子育て家庭への情報の提供や離乳食・給食・おやつ試食会、食に関わる悩み相談など、気軽に利用できるようにしていくことが課題です。

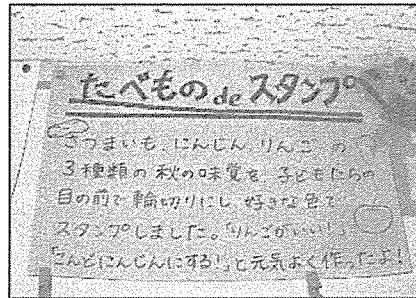
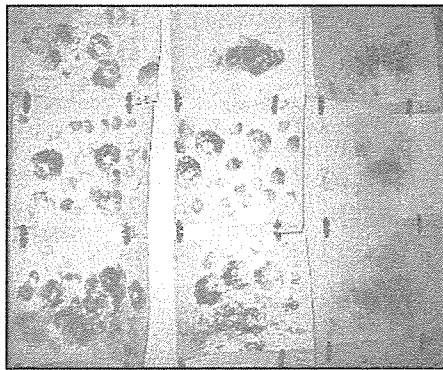
写真-⑧
食育コーナー
“地域の母親達が見ているところ”



写真⑨
作品展



0・1歳児

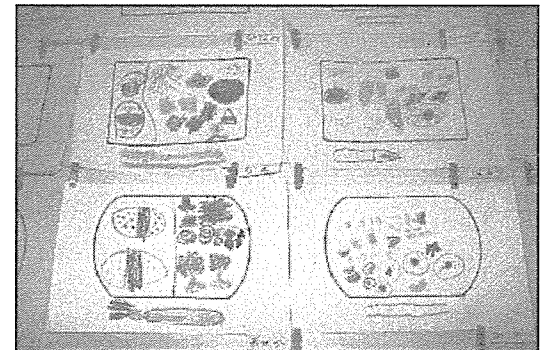
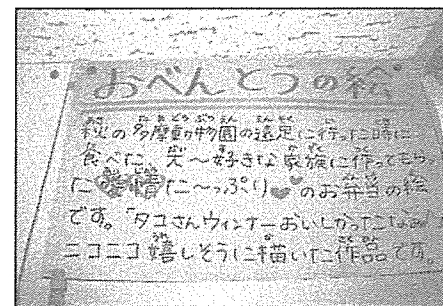


2歳児

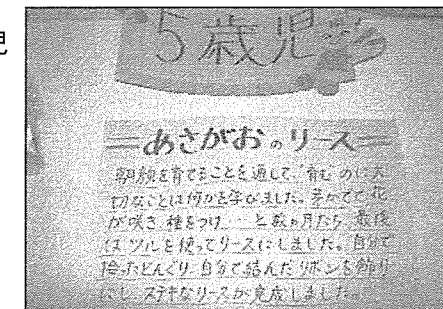
3歳児



4歳児



5歳児



4. まとめ

平成17年度に「食育を通して子どもの育ちを考え実践してみよう」と目標を立て、各クラスで子どもの実態に合わせた取り組みを始めました。まずは食育係の職員2名を決め、全体の調整をしました。各クラスでは保育室や食事環境の工夫などそれぞれにアイデアが見られました。職員の発想に驚いたり、共に考え、より良い方法を見出し、年度末には1年の取り組みを実践記録集にまとめ、報告会を開き、成果や課題を確認し合ってきました。

18年度は新たなメンバーとなりスタートしました。前年度の取り組みや子どもの育ちについて実践記録集をもとに伝え合いました。また前年度2名だった食育係を5名からなる食育実行委員に組織し、この委員会が全体の舵をとり、各クラスへ連絡、相談できるようにしました。これにより前年度のクラスごとの取り組みから、園全体の取り組みへと広がっていきました。

委員会そしてクラス、幼児や乳児、給食室との間で、話し合いを重ね、疑問や意見を交換し合い、職員間で学びあう姿がみられるようになりました。時に一生懸命になるあまり、スピードアップすることもあり、「あわてない」「ゆっくりでいいよ」という園長の声かけもバランスをとる上で大事だったように思います。

食育を進めていくには、給食室と保育室との連携は不可欠であると思いました。そこで、「連携を進めるには・・・」と、「ランチルームのバイキング」を実施することを機会に、給食室での配膳を保育室で行うことで実現できると考えました。調理員が保育室で配膳することで、子どもとふれあうことができるようになり、子どもの育ちを支えるひとつとなりました。職員が連携することで子どもの活動が広がることにつながりました。

さまざまな取り組みの中でも食を通じた人との出会いが子どもの育ちに新たな支えとなっています。保護者への給食試食会、公民館主催の親子クッキング、食を進める地域の会の協力によるうどん作り、地場野菜を持参してくれる地域の方々との交流など。食の大切さを保護者への啓発や保護者間での情報交換により、家庭での親子の関わりへのヒントになり、子どもたちが地域の方々と関わりあう中で、そばに大人がいる安心感を抱くことができ、食を通じた人との関わりが子どもの成長の原動力となりました。保育園だけで子どもの成長を見守り育てるのではなく、地域と連携することで、もっと大きな力になることを職員で実感することができました。

この食育を通して私たち職員が学んだことは、『食育が子どもの生きる力の基礎を培う営み』であるということでした。これからも子どもの育ちを見守りながら、好奇心をもって園の外にも目を向けて地域と交流のチャンスを作ること、そして何より大事なことは職員力を信じることであったように思います。